事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　ふぉー	支援プログラム	作成日	2025 年	3 月	15 日

法人（事業所）理念		子供に寄り添い、子供目一杯遊びともに学ぶ
支援方針		子供の健やかな成長と発達を図ることを目的とし、日常生活における基本的な生活習慣の獲得及び集団生活への適応などの支援を行います ・事業所の指導員は利用者の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じた自立した日常生活を営むことができるよう、コミュニケーション力や視覚・聴覚・知覚を高める活動を通じて子供たちひとりひとりに自信を持たせるサポートに努めます ・支援実施に当たっては、地域及び家族との結びつきを重視し、行政機関・地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的な支援に努めます
営業時間		9 時　0 分から　13 時　0 分まで　送迎実施の有無　（あり　なし）
		支　援　内　容
		0歳児1歳児2歳児 / 3歳児4歳児5歳児
本人支援	健康・生活	発達段階や生活リズムに合わせた睡眠・食事・排泄・着脱の習慣を整え、安心できる生活リズムを築きます 清潔保持の基本（手洗い・鼻をかむ・口を拭くなど）を生活の中で繰り返し体験し、習慣化を促します 気持ちよく過ごせる環境を整え、自己の体調への気づきや表現を丁寧に受け止める支援を行います ／ 食事・排泄・清潔・衣服の着脱などの基本的生活習慣を自分で行う力を育てます 自分の体調や気持ちを言葉で伝えることを支援し、自立性と健康管理の力を養います 活動のメリハリをつけ、生活のリズムを整えます
本人支援	運動・感覚	立つ・歩く・走る・ジャンプなどの運動発達に応じた活動を取り入れ、全身のバランス感覚や体幹を養います 感覚遊び（砂・水・泡・音・光など）を通じて、五感に心地よい刺激を与え、安心できる感覚体験を積み重ねます安定した運動や感覚経験の中で、自分の体への理解とコントロール力を育みます ／ ボール投げ・平均台・ジャンプ・かけっこなど、遊びの中で全身運動を取り入れ、運動能力や協調運動を高めます 粘土・製作・砂遊びなどを通じて、微細運動と感覚の統合を促します 感覚の過敏・鈍感がある場合には、一人ひとりに応じた刺激量を調整しながら支援します
本人支援	認知・行動	興味を持ったものへの探索活動や模倣遊びを通じて、因果関係・順序・比較などの認知の芽生えを育てます 気持ちや要求を「泣く」「指差す」「身振り」などで表現し、それを受け止めてもらう体験から、自信と安心感を育てます 繰り返しや見通しのある活動を通じて、落ち着いた行動への土台をつくります ／ 図形・色・数字・パターン認識など、遊びや教材を通じて認知的興味・集中力・記憶力を育てます スケジュールや活動の流れを視覚的に示し、見通しを持って行動できるよう支援します 気持ちの切り替えやルールを守る力が身につくよう、繰り返しの経験と丁寧な支援を行います
本人支援	言語 コミュニケーション	「名前を呼ばれる→振り向く」「音への反応」などの基本的なやり取りからスタートし、双方向の関わりを促します 絵本の読み聞かせ、童謡、簡単な言葉がけにより、語彙の獲得や音声模倣を自然に促進します 子どもの発した音や表情に対して適切なフィードバックを返すことで、表現の意欲を高めます ／ 「質問に答える」「お願いする」「説明する」などの目的に応じた言葉の使い方を身につけます 絵本・ごっこ遊び・対話を通じて、語彙・文法・ストーリー理解の力を養います 気持ちの言語化を支援し、相手とのやりとりが楽しくできるように促します
本人支援	人間関係 社会性	安定した大人との愛着関係を築くことを最優先とし、自己肯定感の土台をつくります 他児との関わりの中で、見守られながら自然なやり取りや並行遊びが生まれるような環境を整えます 「ありがとう」「どうぞ」「ごめんね」などの基本的な社会的行動を生活の中で体験的に学びます ／ 小集団での活動や遊びを通じて、協調性や相手の気持ちを考える力を育てます 「ルールを守る」「順番を待つ」「助け合う」などの社会的スキルの定着を支援します トラブル時には職員が仲介し、言葉や態度で解決できる力を育てます
家族支援		毎日の送迎時や連絡帳でお子様の様子を丁寧にフィードバックし、保護者の安心につなげます 個別面談や発達相談を通じて、子育ての悩みに寄り添いながら必要な支援機関や情報を提供します 育児疲れや孤立を感じる保護者への共感的対応を心がけ、地域資源とも連携して支援します ／ 子どもの成長や課題について保護者と定期的に情報共有し、家庭との連携を深めます 就学や療育手帳など将来に関する相談も受け、必要に応じて関係機関につなげます
移行支援		2歳後半～3歳にかけての発達の変化に合わせ、幼児クラスへのスムーズな移行ができるよう事前の準備・慣らしを行います 保護者との相談を通じ、発達に応じた支援方針の見直しや今後の方向性を一緒に考えます ／ 小学校就学に向けて、支援会議やアセスメントを行い、必要な支援や配慮事項を整理します 学校見学や就学前の体験を提供し、安心して入学できるよう準備を行います
職員の質の向上		乳幼児期の発達や育児支援に関する研修を継続的に行い、観察力・共感力・対応力を高めます チーム内での振り返りや記録の共有を通じて、支援の質の統一と個別最適化を図ります ／ 発達特性への理解を深める研修や、SST（ソーシャルスキルトレーニング）、応用行動分析（ABA）などの専門的アプローチの学習を行います 保護者対応や記録の質の向上にも力を入れ、職員間の連携を深める体制を整えます
地域支援・地域連携		保育所、子育て支援センター、地域の医療機関・相談支援機関との連携を図り、早期支援につなげます 地域のイベントや施設（図書館、公園など）を活用し、子どもの世界を広げる機会をつくります ／ 幼稚園・保育園・こども園との連携、地域イベント参加などを通じて、子どもが地域と関わる機会を広げます 医療・福祉・行政などと連携し、就学に向けた情報共有や支援体制づくりを行います
主な行事等		季節の行事（ひな祭り、七夕、ハロウィンなど）を通じて、感覚的な楽しさや文化体験を提供します 家族とのふれあいイベントや記念撮影を通して、成長を共に喜び合う機会を大切にします